

令和5年度 自己評価・学校関係者評価に係る評価結果

高松市立協和中学校

	評価項目	評価 4段階	自己評価結果と改善方策等	学校関係者評価結果および意見等
1	確かな学力の育成に関すること (学力向上、キャリア教育、英語教育、情報教育等)	3	協和型協同学習の研究により、みんながもれなく「学び合う」授業づくりに取り組んだ。生徒が自発的に発言できるように、教師が生徒のつぶやきに耳を傾ける姿勢の向上が求められている。	オープンスクールでは、生徒と先生が明るくよい雰囲気で行っている様子が見られた。来年度も引き続き実施してほしい。
2	豊かな心を育てる教育の推進に関すること (道徳教育、小中一貫・連携教育、シビックプライド、読書活動、体験活動等)	3	生徒会が主体となり、地域に根ざした清掃活動や募金活動が充実している。今後も引き続き、生徒の自己有用感が高まる取組が必要である。	生徒数増加・施設・設備老朽化に伴い、本年度は特に学校運営が難しい状況になっている。
3	生徒指導の充実に関すること (いじめ、不登校対策、学校生活のきまり(校則など)等)	3	SSW、SC、関係機関との連携が効果的に行われている。しかし、様々な事案に対して、学年団を問わず情報交換を密にし、対応していく必要がある。	しかし、校区小学校の協力や保護者との関わりを通して学校経営の重点ポイントを踏まえた教育活動が取り組めており、徐々に成果となって表れていることが分かる。
4	運動に親しむ習慣づくりと体力の向上に関すること (体力・運動能力の育成)	3	部活動や保健体育の授業を通して体力の向上が図られている。生徒自らが運動によって、技能だけではなく心身共に健康になる指導方法の充実が必要である。	教職員の働き方改革の一環として、部活動の地域移行が実現できれば、教職員の負担軽減にもつながる。また、教職員の負担軽減は、教育活動の充実化につながっていくことから、市教委の指導や助言を生かしながら改善を図ってほしい。
5	食育の推進と心身の健康づくりに関すること	3	給食の残菜等が多く、さらに食育の推進を図らなければいけない。職員全体の研修を通して、よりよい食育指導の実践が必要である。	地域の行事に積極的に参加する生徒が年々増えているように感じる。また、ボランティア活動を行う生徒の働きは目を見張るものがあり、地域にとって必要不可欠な存在となっている。
6	学校人権教育の推進に関すること	3	地域の小学校や文化センターと協力して取り組んでいる。今後も人権に関する資料を用いて、研修を行い、教職員の人権感覚を高める必要がある。	今後も校外でのボランティア活動を通して、地域を愛する心が育まれていくことに期待する。
7	特別支援教育の推進に関すること	3	特別支援学級のみならず、多動傾向、発達障害傾向のある子どもに対しても幅広い対応が求められており、さらにより対応を全職員で研修を深める必要がある。	運動会では、屋島レクザムフィールドで生徒たちが生き生きと活動する様子が見られてよかった。
8	教員の資質向上と教育指導体制の充実に関すること (職員のコンプライアンス・現職教育等)	3	他の教員の授業参観や研究討議等は授業力向上に役立っているが、負担は少なくない。今後、さらに効率的な研修の在り方について考える必要がある。	来年度の人権合唱祭は校外施設を借りて行うなど、より質の高い教育の実践に向けた前向きな取組を委員として支援していく。
9	安心・安全で質の高い教育環境の整備に関すること	3	仮設校舎の建設、施設の老朽化による補修工事など、教育環境を維持しながら、整備することが求められている。	今後、生徒数の増加が見込まれており、登下校時の安全確保と交通ルールの遵守についての指導が重要である。
10	家庭や地域との連携・協働に関すること (コミュニティ・スクール等)	3	担任を中心に家庭連絡・家庭訪問が丁寧に行えており、訪問後のミーティングなどでスキルアップが図られている。しかし、退庁時間が遅くなるなど、効果的な業務の見直しが必要とされている。	教員の時間外勤務時間は課題である。業務改善を図る一方で、教員の意識改革も大切である。
11	働き方改革・業務改善に関すること (時間外勤務の削減等)	3	保護者等の価値観の多様化により、教職員の丁寧な対応が求められている中で、どのように業務の効率化を図るかをさらに職員全体で考えていく必要がある。	